

多目的ホールに関するご意見一覧

資料3

	①主体	②規模	③回数	④時間帯	⑤形態
1	萩小で将棋をしているおっちゃん	30人程度	ほぼ毎日	午前+午後	おっちゃんの見解を聞いて行政が検討
2	フィールドワーク等で学習に来る学生	50人180㎡※参考(一社)富山県農協会館HP	週数回程度	午前+午後+夜間	一般的な会議、講義スタイル
3	全市民が使える	300人規模のホール、10~20人用の会議室、間仕切りをはずせば倍・3倍と広がる	ほぼ毎日	午前+午後+夜間	貸しホール
4	だれでも	100人	ほぼ毎日	午前+午後+夜間	常時そこにいられる場所(長期滞在者をどうするか問題)(道の駅的宿泊?)
5	労働者	100人	ほぼ毎日	午前+午後+夜間	テーブル、いすが移動できる。
6	町会員の方、中高年?	15~20人	月数回程度	午後	その方にあつたように身体を動かす
7	地域の住民	萩小の森規模に囲碁将棋のスペース、雑談スペース、TV、映画などを流す休憩スペース等他イベントができる	ほぼ毎日	午前+午後+夜間	②のように使う
8	今まで地域に足を運ばれなかった人たち、主に近隣(同区内、隣接区)	具体的なイメージではないが蜜ではないゆったりできる広さ	ほぼ毎日	午前+午後	北側スペース全般と混同している所があるが新しいセンター全体として隣接地域から抵抗なく人が来る事が望ましい
9	一般の人	100人	月数回程度	夜間	有料のコンサート、演劇等
10	子ども	50人	週数回程度	午前+午後	子ども会議、ワークショップ、ダンス、音楽(バンド)、研究、映画、子供の意見、交流、発表会、勉強

## 多目的ホールに関するご意見一覧

資料3

	①主体	②規模	③回数	④時間帯	⑤形態
11	若者、青年	50人	週数回程度	午後+夜間	連絡検討会議、就職体験会、企業立ち上げプロジェクト会議、交流、各種クラブ（音楽、ダンス、映画、勉強）
12	色んな問題に関心のある人	100人	月数回程度	夜間	勉強会、講演会
13	地域の人	入れるだけ	災害の時		避難所として
14	図書施設は静安を求める人たちの場と思います	50人	ほぼ毎日	午前+午後	本や資料室を読む
15	生活困窮者、お金を必要としない居場所	他の機能と複合でも良い	ほぼ毎日	午前+午後	屋内スペース（冷暖房有）、屋外スペース（オープンスペース）
16	責任をもって使用できる人	30～50人	ほぼ毎日	午後	演芸、稽古場、会議
17	萩小の森利用者を含む地域住民	300人	ほぼ毎日	午前+午後	
18	寄せ場交流会参加者	200人	年2回	午前+午後+夜間	学校型の椅子の配置
19	子ども達が自由に見聞きできる場所	20～30人	月数回程度	午前+午後	音楽や紙芝居、若い人の芸術をみせてあげる
20	まち歩きスタディ（フィールドワーク）の参加者（大学生、市民）	最大40人	週数回程度	午前+午後	パワポや動画を使え、地域の歴史やまちづくり関係の資料、書籍がそろっている部屋（マイクやコピー機も）
21	子育て中の母親、父親	30人	月数回程度	午前+午後	子育て相談、交流会、交換会、仕事相談会、仕事づくり、発表会
22	だれでも	300人	申込制	午前+午後+夜間	発表会、後援会、イベント（階段状の座席とステージ）
23	実演施設、パフォーマーと観客の場	50～100人	月数回程度	午後+夜間	演芸場、ステージ

多目的ホールに関するご意見一覧

資料3

	①主体	②規模	③回数	④時間帯	⑤形態
24	子育てしている家族	50人	月数回程度	午前+午後+夜間	
25	地域の単身高齢者		ほぼ毎日	午前+午後	屋内：冷暖房、高齢者に優しい 屋外：季節感を感じながら
26	仕事を求める求職者		ほぼ毎日	午前+午後	オープンスペースで就労だけではなく生活福祉に関する情報を得る場
27	イベント（No.9の意見を聞いて）音楽、芝居など有料があっても無料があってもいい	100人程度	月数回程度	午前+午後	現住人と他地域から来た人たちの接点として。無料コンサートならば地域の人達も来易いし、仕事帰りの人が立ち寄れるのも望ましい。モデル：曽根崎警察B1で行っているコンサート。エルおおさかのランチタイムコンサートなど。
28	基本的には50年この町に住み続けている人を優先するべき	30～50人	ほぼ毎日	午前+午後	気兼ねなく使用できる
29	地域住民+新今宮駅利用者、災害時の一時避難、待機場所	エリア全体	災害時		
30	地域の住民	40～50人	月数回程度	2～3時間	地域の集会、無料で使える場所
31	親子（乳児や未就学児）		月数回程度	午前+午後	乳児など連れていけないので、お茶がまったりできるスペース。親が目の届く範囲で子どもたちがあそんだりゴロゴロできる場所。親子ヨガなど。
32	・子育て世帯の人たち ・子育て支援団体 (交流、情報交換、リサイクル、リユース)	100人?	月数回程度	午前+午後	フリーマーケットを開催する。各家庭で不要になったものを販売等して、その中で子育て交流等を行う。
33	不登校のこどもが勉強したり、過ごしたりできる場所	15人程度	週数回程度	午前	勉強や自分のやりたいことに取り組めるように（読書など）

多目的ホールに関するご意見一覧

資料3

	①主体	②規模	③回数	④時間帯	⑤形態
34	高校生や就労をめざす若者	10～15人	月数回程度	夜間	地域で働いている大人と対談したり交流できるように
35	地域のいろいろな居場所や団体の人たちや子どもたち。 また、通りすがりの人たちでも立ち寄れるように	600～650㎡ぐらい	月数回程度	午前+午後	地域の様々な拠点で活動している子どもや若者、障がい者、高齢者などの作品展を定期的に行えるギャラリーのような使い方ができたらいいと思う。
36	中・高校生		月数回程度	午後	バスケットボールをしたりバトミントンや外で風を受けないような室内遊戯。 ダンスなど。卓球など。
37	若者（十代～二十代）	10～20人	月数回程度	午後+夜間	集いの場
38	西成区および近隣区の子育て世帯の人たち	700㎡ぐらい	月数回程度	午前	定期的なフリーマーケット開催 ママたちの特技を生かしたワークショップ・講座の実施
39	地域の若者や子ども、親子	普段は20～30人程度 発表時には150～200人ぐらい は入れたらよい	週数回程度	午後+夜間	音楽や合唱、ダンスなどを練習できる教室として週1～使って、年に数回発表の場として演奏会やライブを行う。
40	中学校や高校に行けてない子供たち、 また、家で勉強する場がない子どもたち	20人ぐらい？	ほぼ毎日	午後	自習室として開放する。何人かボランティアで勉強をみれる人を配置して質問に答えられるようにする。
41	地域の任意団体	30～50人ぐらいが広々と練習や活動に使えるぐらい	週数回程度	夜間	夜間に自治体や民間で活動している団体（エイサーや空手や他のスポーツなど）が無料または低額で使用できるとよい

図書施設に関するご意見一覧

No.	①機能アイデア	②利用イメージ	③その他意見
1	・地域の10名以内のグループがワーキングスペースとして使う。	図書館が静かである必要性を感じないので、空いている机を数名程度のグループで会議をしたり作業をしたり活用すればよい。会議室を借りるのはたいそうなので、気軽に使える場所として使用できれば。オープンなスペース。	・西成アーカイブを充実させる
2	(西成アーカイブ)	釜ヶ崎の歴史や内容を知りたい人達が訪ねて来た時に見ただけの量と質を充実させることで、外からの訪問客も増えるのではないかと。	・西成アーカイブを充実させる ・釜ヶ崎に関する文書、写真など提供を呼び掛け
3	自習室 夜間学校	窓際にあればよい。 ゆっくりと考え事をして思いにふける様(場所があれば)がいいと思います。 全体的に大人用として考えています。	・自習室は、眺めの良い向きにあればいいかなと思います。 ・多目的ホールとも重なりますが、夜間の学校なんかもあればいいかなと考えます。
4	DVD等を利用できる	—	—
5	DVDスペースの設置 音声はヘッドホンによる(静かなエリア) キッズスペースの設置 落書きコーナー等(やかましいエリア)	会員制で無償で利用可能。 図書館自体は常時100名程度が利用・滞在できる規模。 多目的スペースでも本の閲覧ができるとよい。	アーカイブ機能の拡充。
6	新聞雑誌がたくさんほしい 地域の歴史がわかる資料	—	新聞雑誌は1年分ぐらいは残してほしい。 西成アーカイブは火・水曜日しか開いていない。
7	子どもや若者の居場所	漫画やゲーム(ボードゲーム、カードゲーム)、PCスペース、テレビゲームの設置	参考:尼崎市ユース交流センター
8	定住・滞在外国人向けの書籍	外国語で西成区を紹介する書籍があり、地域の歴史や地域の情報が手に入る。 カフェ機能やWi-Fi設備も完備。	
9	静かに過ごす空間	—	—
10	交流から学ぶ場所	—	交流できるとなると静かな空間にはならない。
11	特化した機能を有する施設	利用者やテーマを絞って書籍や資料を集める。	一般的な図書館と同じものを作るのはもったいない。
12	あらゆる世代が好きな本が読めて読書会ができるスペース	話題になっている本が読める。 本好きな人との交流、多世代での交流ができる。	—
13	特色のある施設	「労働者」、「子ども」をキーワードとした書籍・資料が揃っている。 カフェとかがあっても良い。	西成図書館と同程度の利用者が訪れるとよい。 西成図書館と同様の規模、効率的な規模を検討する必要がある。 規模が大きいと費用がかかる。市の負担が増える。 交通利便性の良さも活かす必要がある。
14	大きな閲覧室	電源、Wi-Fiが整い、自由に利用できるスペース。 図書室だけでは面積を確保できないため、多目的室も利用。	多くの書籍を所蔵する必要はない。

図書施設に関するご意見一覧

No.	①機能アイデア	②利用イメージ	③その他意見
15	—	—	素敵な施設をつくってもらいたい。
16	地域に特化した資料や子ども向けの漫画など、特化した施設	—	—
17	子ども向け図書	—	—
18	外国人向け図書	—	外国人の集客が望める。
19	(西成アーカイブを移転)	新今宮周辺の資料が包括的に集まっており、区民だけではなく、区外からの利用も可能。	
20	—	—	図書は行政で集めなくてもよい。寄付を集う。
21	地域に特化した資料を集める	情報を知りたい人が集まる施設。 従来のような閲覧室ではなく、テーブル・電源を自由に使い、専門図書はタブレットで閲覧可。	—
22	自由なスペース	図書、コワーキング、多目的スペースが重なりあって行き来できる。	—
23	多目的室スペースを含めた広がりを持った図書施設	—	図書のある文化交流施設のイメージ
24	気軽に打合せや会議ができるオープンなスペース	手続き不要でスペースを使用できる。	—
25	(西成アーカイブを移転)	現在の西成情報アーカイブをバージョンアップした使い方ができるように、ここに移転する。 面積も現在のボリュームを参考に設定する	—
26	書籍を無料で持って帰れる図書館	諸外国から寄付される図書がたくさんある。貸す図書館ではなくあげる図書館。	—
27	旧あいりん総合センターの記憶遺産的体験施設	労働者の街としての歴史を忘れることなく継承するためにバーチャルでかつての様子を立体的に体感できるルーム。ミュージアム。	ガイドや清掃で元日雇い労働者（高齢者）の雇用やボランティアの場とする。 映像は西成労働福祉センターや地元映画監督などが蓄積しているはず。
28	多様な文化を知る・学ぶ施設	地域で一緒に住んでいる外国人と文化を一緒に学ぶことができる場。	—
29	キッズルーム	子どもが思いっきり体を使って遊べる場所。 小さなプール、ボールプールの設置。	—
30	(施設の規模等)	規模が大きければ、経費がかさむ。 何が一番良いか効率をめざすべき。	
31	自習室	勉強できるスペースを作る	
32	歴史資料館・博物館スペース	釜ヶ崎の歴史を学べる写真や書物の展示・閲覧ができるコーナー、映像資料の視聴スペース など	

### 図書施設に関するご意見一覧

No.	①機能アイデア	②利用イメージ	③その他意見
33	乳幼児や親、親子で絵本を読んだり、読み聞かせ、ブロック遊びなど静かに過ごせる場所	畳スペースなどを作って、靴を脱いでゆっくりできるように。20～30畳程のスペースで10人程が利用できるように。	
34	紙芝居、人形劇、楽器体験、詩づくり、朗読会、童謡の音楽会、昔あそび、コンサート、演奏会	小さい規模で、子どもたちが普段体験できないようなことに触れあえるイベントをする。 人が集まれるスペースを設けて、小さな舞台のようなものをセットできると良い。	
35	勉強スペース	学生、青年、成人、高齢者、あらゆる年代が勉強に集中して取り組める机、イス、仕切りがある机が良いのでは。	
36	図書施設は静安を求める人たちの場と 思います	①50人 ②本や資料室を読む	多目的ワークショップご意見 No.14
37	親子（乳児や未就学児）	①ー ②乳児など連れていけないので、お茶がまったりできるスペース。親が目の届く範囲で子どもたちがあそんだりゴロゴロできる場所。親子ヨガなど。	多目的ワークショップご意見 No.31
38	不登校のこどもが勉強したり、過ごしたりできる場所	①15人程度 ②勉強や自分のやりたいことに取り組めるように（読書など）	多目的ワークショップご意見 No.33
39	中学校や高校に行けてない子どもたち、また、家で勉強する場がない子どもたち	①20人くらい？ ②自習室として開放する。何人かボランティアで勉強をみれる人を配置して質問に答えられるようにする。	多目的ワークショップご意見 No.40

実演の場に関するご意見一覧

No.		①内容				②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)	
		各種展示物等の設置スペース	実演の場	場所				ワークショップスペース	午前	午後			夜間
				屋内	屋外								
1		—	—	●		・地域の10名以内のグループがコワーキングスペースとして使う。	—	ほぼ毎日	●	●		空いている机を数名程度のグループで会議をしたり作業をしたり活用すればよい。会議室を借りるのはたいそうなので、気軽に使える場所として使用できれば。オープンなスペース。	(図書施設ワークショップご意見 No.1)
2	ドローンスクール ドローンの免許を取得や体験、練習ができる場所として活用。	—	ドローン体験 ドローン資格技能講習	●		小さいドローンをワークショップルームで飛ばす(小林委員)	南側労働施設 1階待合	回数程度	●	●		2022年に国家資格として免許制度となるドローン(200g以上)。ICT技術の活用として、建設業においても、ドローンによる測量や橋梁の点検作業などに活用されている。また、実験的に資材の運搬など活用に広がりを見せている。子供たちも含めて身近にドローンを体験できるイベントや、日ごろのドローン飛行の練習場として活用する。(人口密集地だと基本屋内でしか飛ばせず、練習スペースが限られており、例えば近隣で言うと天下茶屋のフットサル場の場合1H/3000円くらいとなっている)	(事前提出) ドローンは最高に良いが、広いスペースが必要になるため、広場との棲み分けも大事かと思う。
3	地域の子どもたちを含め、大人も子どもも楽しく学べる「建設博物館」	簡易足場の設置、建設機械の展示、VRスペース、ウォーターブラザにあるような対戦型のゲームコーナー「クイズ建設博士」等	対象指定なし：とび体験をゲーム感覚で味わえるコーナー(参考画像①)、コンクリ打ち、コンクリならし、建設機械の試乗  大人向け：建設業シミュレーションコーナー(指揮命令経験、労災発生時の行動等)	●	●	キッズニアにあるようなDIYコーナー、左官(壁塗り体験)	北側広場施設内3フロア(例：3部屋)	回数程度	●	●		・10:00~17:00 ・入場料：小学生無料、大人500円(ただし、非課税世帯や外国人労働者は無料) ・楽しみながら建設業に触れることで、建設業に興味をもたせる。次世代の人材確保・育成等の振興支援を目的とする。外国人も対象者に入れる。 ・展示スペース・実演の場では体を動かしてモノを造り上げる建設業の魅力を知ってもらい、ワークショップスペースでは職人をスタッフとして招き雇用・交流の場とする。東京の科学技術館4階F室の「建設館」要素も入れる。 ・賃料は一般財団法人建設業振興基金などから寄付金を募る。あるいはクラウドファンディング。	(事前提出)
4	地域の子どもたちを含め、大人も子どもも楽しく建設業に触れ合えるブース	簡易足場の設置、対戦型のゲームコーナー「クイズ建設博士」、建設業や地域の歴史をパネルにして展示	対象指定なし：とび体験をゲーム感覚で味わえるコーナー(参考画像)、コンクリ打ち、コンクリならし、建設機械の試乗等 大人向け：建設業シミュレーションコーナー(指揮命令経験、労災発生時の行動等)	●		DIY講座、夏休み学習にもつながる体験型講習の実施	北側施設内 1室	回数程度	●	●		・北側は福祉関係の施設を建設するという話も出ていた。施設内に10畳ほどのスペースを借り、建設業や地域の知識で戦う対戦型のゲームコーナー、ゲーム感覚で遊べる簡易足場、建設業や地域の歴史を簡単に資料としてまとめて展示、DIYなどモノづくり体験コーナーのいずれかを設置し、子どもをはじめとして建設業を身近に感じてもらう、魅力を知ってもらうブースにする。	(事前提出) 重機扱うとなるとかなり広いスペースや屋根がある

実演の場に関するご意見一覧

No.		①内容				②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情)	
		各種展示物等の設置スペース	実演の場	場所				ワークショップスペース	午前	午後			夜間
				屋内	屋外								
5	「ハラハラドキドキ！足場体験」子どもも大人も楽しみながら学べるイベント	簡易足場の設置	・3階相当の足場から見た眺めをVRで体験、床に実際に建設現場で使用される足場板を設置する（ただし、安全面を配慮して床に直置きで固定）。参加者にはこれを伝えて、時間内に丁寧に早く、用意したミッションをこなしてもらう。クリアできた人には修了証（おもちゃ）を贈呈する。	●		体験を通して感じたことをタブレットに書いたものをスクリーンに反映する。あるいはポストイットほどの大きさの紙に書いて壁に貼り付ける。手書きにするなら、小学一年生でも使えるような高さの机一台を配置（サッカー台ほどの高さ）。	63平方m～150平方m（一般的な教室の広さが63平方m）	月数回程度	●	●		・使用方法は「実演の場」「ワークショップスペース（作業室）」と同じ。ミッションでは高い所で物を作ったり（例：マグネットお絵かきボードと磁石を付けたこてで左官ごっこ）、鉄筋等固定したり、所定の位置から所定の位置まで物を運んだり、する。 ・小中高生無料、大人500円。	(事前提出)
6	「仕事ってなーに？Ver.建設業」子どもも大人も楽しみながら学べるイベント	・パネル展示（どうして仕事をするの？、建設業の歴史、西成区と建設、建設と大阪、身近な建設、危険作業と注意点、建設関係の施設、建設の未来 等）	・資格のいる建設用重機に試乗、写真撮影	●		—	63平方m～150平方m（一般的な教室の広さが63平方m）、西成労働福祉センター1階駐車場	月数回程度	●	●		・対象：地域の子どもをはじめとする小中高生 ・キッズニアでは伝えきれない建設の面白さ・危険回避の方法・働くことの大切さを伝えるイベント。クイズを書いた紙を渡し、答えとなる仕事をする意味や建設に関する展示パネルを施設の色々な箇所に設置。クイズを解いてもらう。 ・参加者には最後に試乗体験と記念の写真を贈呈。	(事前提出)
7	—	—	こども（小中学生）を対象としたVR, AI、ドローンなどの機器や技術に触れて遊んで学べる場づくり	●		—	—	週数回程度		●		週末や休日にスクール形式で実施（毎回10～15人） 参考：太田市 キッズクリエイティブチャレンジ	(当日提出)
8	—	—	アート・芸術関連。 例えば、合唱や歌、バンド等の練習ができるスペースがほしい	●		例えば、踊り、演劇の練習、ダンスの練習、落語が出来る場所（教室）	—	—	—	—	—	—	(当日提出) 実際に活動している人の意見を反映する形をとってほしい。意見を反映されると参加意識につながる。



実演の場に関するご意見一覧

No.		①内容				②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情)	
		各種展示物等の設置スペース	実演の場	場所				ワークショップスペース	午前	午後			夜間
				屋内	屋外								
19	—	—	ICT技術を実体験できるスペース。	—	—	—	—	—	—	アップルストアのような、タブレットやスマホを説明して学べるようなスペース	—		
20	—	—	子どもの食育	—	—	子ども向け料理教室	—	—	—	台所がなくてもレンジで料理 コンビニで売っているものであればレンジで作れる	—		

地域の歴史等の伝承（アーカイブ）に関するご意見一覧

No.	①内容	②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)
				午前	午後	夜間		
1	釜ヶ崎の歴史や内容を知りたい人達が訪ねて来た時に見ていただける量と質を充実させることで、外からの訪問客も増えるのではないかな。	—	ほぼ毎日	●	●		—	・西成アーカイブを充実させる ・釜ヶ崎に関する文書、写真など提供を呼び掛け  (図書施設ワークショップご意見 No.2)
2	新聞雑誌がたくさんほしい地域の歴史がわかる資料	—	—	—	—	—	—	新聞雑誌は1年分ぐらいは残してほしい。 西成アーカイブは火・水曜日しか開いていない。  (図書施設ワークショップご意見 No.6)
3	西成アーカイブの移転	—	ほぼ毎日	●	●	●	新今宮周辺の資料が包括的に集まっており、区民だけではなく、区外からの利用も可能。	(図書施設ワークショップご意見 No.19)
4	西成アーカイブの移転	—	ほぼ毎日	●	●	●	現在の西成情報アーカイブをバージョンアップした使い方ができるように、ここに移転する。 面積も現在のボリュームを参考に設定する	(図書施設ワークショップご意見 No.25)
5	旧あいりん総合センターの記憶遺産的体験施設	—	ほぼ毎日	●	●	●	労働者の街としての歴史を忘れることなく継承するためにバーチャルでかつての様子を立体的に体感できるルーム。ミュージアム。	ガイドや清掃で元日雇い労働者（高齢者）の雇用やボランティアの場とする。 映像は西成労働福祉センターや地元映画監督などが蓄積しているはず。  (図書施設ワークショップご意見 No.27)
6	多様な文化を知る・学ぶ施設	—	—	—	—	—	地域で一緒に住んでいる外国人と文化を一緒に学ぶことができる場。	(図書施設ワークショップご意見 No.28)
7	歴史資料館・博物館スペース	—	—	—	—	—	釜ヶ崎の歴史を学べる写真や書物の展示・閲覧ができるコーナー、映像資料の視聴スペース など	(図書施設ワークショップご意見 No.32)
8	バーチャル空間、プロジェクションマッピングでの立体物などがどの場でも使えるような設備・施設	—	—	—	—	—	—	—
9	あいりんというところは、どんな人たちが住んでどんなものを、日本の中で作ってきたのかを映像化	—	—	—	—	—	—	—
10	西成というところへの文化的な歴史的な存在感を入れ込む	—	—	—	—	—	—	—

地域の歴史等の伝承（アーカイブ）に関するご意見一覧

No.	①内容	②規模	③-1 利用頻度	③-2 時間帯			③-3 形態	備考 (規模、利用主体等の補足情報)
				午前	午後	夜間		
11	山王町が芸人の街ということを踏まえ、この町からビッグになっていった芸人やアーティストを例に挙げる	—	—	—	—	—	—	—
12	未来に向かって発信するような機能。国際化	—	—	—	—	—	旅行者が楽しんでもらえる施設 子どもたちが外国人と接触することで勉強になる	—
13	あいりん総合センターのミニチュアを作って飾る	—	—	—	—	—	労働福祉センターにはなく、職安か医療センターかで見 たことがある。	

こどもの居場所・子育て支援機能に関するご意見一覧

(14/18)

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
1	子どもとその家族	20~50人	・1Fにあそび場(屋内と屋外) ・こどもの里の1Fホールを移動する「こどもの居場所」	ほぼ毎日		●	●	・夜はあそびのプログラムを週1回くらいする ・夜に中高生の居場所の運動を週1回くらいする ・週5~6回、あそびの場(放課後)としてつかう ・舞台や歌などの発表の場としてもつかう →支援が必要な子ども家族は相談につなげる	地域にこどもの居場所が必要だから(中心地につくことに意味がある)	
2	子ども・その家族	10人が入る部屋	ワンストップ相談室	ほぼ毎日	●	●	●	・行政横軸 現状の縦割り部署より、そのケースに関わるであろう担当者が集合 子どもに一番よい最善の利益を考え策を練る	子ども家庭省の出先機関、出張所 なにより西成区の目標の「子どもの声がかきこえる町づくり」 日本一やさしい区役所だからできること!!	
3	子ども、子育て世帯、若者	-	子育て~就労、住まい等、総合的な相談ができる、ワンストップ窓口	ほぼ毎日	●	●		子育てや、子育て世帯の就労相談について(住まい等も含めて)1つの窓口で相談を受けてくれる場	現状のたてわりの行政システムでは、せっかく勇気を出して相談に来て「〇〇に関しては、この課ではない」と言われてしまう。ただでさえ複合的な課題を抱えている家庭・若者にとってはその過程でつまづいてしまうので、1つの窓口ですべて解決するシステムが必要。	
4	シングル親子、生きにくさを抱えている人、障害のある人	-	ワンストップ窓口	ほぼ毎日	●	●	●	駅近なので、相談に来るにもアクセスよし。 路面に面して、広く明るい雰囲気に入りやすいように。 ケースワーカー的な職員がおり、地域と家に連絡をとりながら。	シングル親子、生きにくさを抱えてたり、障がいがあったりする人はたくさんいる 親子や若者たち この街にはいろんな支援団体がある 労働センターも新しくなる 仕事も探せる、支援先もある、保育所もある、宿もたくさんある。 ひとつの窓口でうけとめ、スピーディーに次につなげられる。	
5	就学前の幼児児童	100人	・保育園 ・あお空保育(保育室兼) 釜ヶ崎の特徴を生かすべき ・緊急一時保護(あおぞら保育兼)	ほぼ毎日	●	●	●	釜ヶ崎の制度(あお空保育)を生かし、まず子どものいのちをど真ん中に子どもの最善の利益を考える場 ワンストップ相談と手を組む	子ども家庭省の 子どもの権利基本法 子どもの最善の利益を考えなければならない 西成区が日本一子どもにやさしい町となるため!! 子どもにやさしい町は大人にもやさしい町です	
6	子ども 青年	30~50人	・音楽関係 ・ダンス関係 ・演劇関係 ・美術関係 ・工芸 ・園芸→屋上に庭園を造る 萩小の森が不可能ならば	週数回程度	●	●	●	“この指とまれ”形式で(各種講座をひらくような形)部員を募集 (青年中心に企画、運営してゆく)	自分の力を発揮でき、または自分を認めることの出来る場を準備できる、計画・企画できる、その場を提供することを子どもの権利を守るための大人がすべきこと(責務)	
7	子ども 青年	30人 相談・意見室(4~5人)	子ども会議の場(大室) 意見を言う場 聴いてもらえる場(小室)					意見傾聴室は毎日 子ども会議室は他室とも兼ね、1か月に5~6回開催	子どもの意見を聴くこと。その場を整えることは。子ども家庭省がこれから全国に備えていく場で 全国先駆けてこの場にワンストップ機能と意見表明の機能を準備することは西成が出来ること	

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
8	子ども・青年・家族	50~100人	ワンフロアを子ども関係に(1Fでも2Fでも3Fでもよい。但し、萩小の森との連携) ・あそび場 ・ただ居られる場 ・自分を育てる場	ほぼ毎日	●	●	●	午前は主に就学前児童、未就園児とその親 午後は小学生・中学生 夜間は中学生・高校生・青年	子ども家庭省が創設されるように、子どもの居場所を用意することは子どもの権利を守る、大人の国の責務であるから 天災の中でもそうでなくても出生の場に関わらず、どの子も自分の居場所があることは権利である	
9	12歳~20歳頃までの子ども・若者	学校の音楽室くらいの広さ	音楽スタジオスペース(ギター、ピアノ、ドラムなどが無料で使える)	週数回程度		●	●	・利用人数・利用時間の枠を設定し、スタジオを利用することができる。(無料) ・楽器(ギター・ピアノ・ドラム等)の練習ができる。 ・ボランティアで、楽器が弾ける地元のミュージシャン等にきてもらい教えてもらえる企画を行う。	・子ども達から、思いきり楽器を弾ける場所がほしいとリクエストがあった。 ・音楽を通して気持ちを発散する場、仲間とつながる場(居場所機能の1つとして)が必要。有料スタジオは他の場所にもあるが無料で使える場所はなかなかないと思うので必要。	参考①b-lab(ビーラボ)(東京都文京区NPOカタリバ) ②フリースペースたまりば(川崎市夢パーク)
10	必要な親子	人数は流動的、700㎡くらい	相談及び居場所、保育所などの複合的な機能を併せ持つ場	ほぼ毎日	●	●	●	内容がどんな内容でも、何か相談したいことがあれば保護者がいつでも相談できて、そのまま相談内容に対して対応できるようなワンストップ窓口および居場所として使用(例:待機児童の保育や保護者の仕事あっせんなども含む)	既存の役場にある相談窓口はすべて縦わりになっており、相談したい内容それぞれの相談機関や窓口に出向く必要があり、本当に必要な親子に必要なサービスが供給されるのに、大変時間がかかり相談にいづらいシステムになっていると感じるから。	
11	子ども	30	遊び場(体育館)	ほぼ毎日		●		広い場所でしかできない遊び バスケ、ドッチボール、鬼ごっこ、バレーボールなど	閉校した学校の体育館は常に予約でいっぱい 日常的なあそび場として使うことができない。いつでも使える広い空間が子どもには必要。	
12	子ども、親子	30人ほど、600㎡	パルクールができるような遊具、障害物を置く、または、ボルダリングが少しでもできるように設置するなどアスレチック機能を持っている広場	ほぼ毎日		●		子ども達がアスレチック機能のある遊具・障害物などで体を思いきり動かす	アスレチック機能のある場所(公園)がほしいというのはこどもの里でも子ども達がよく言っているので子ども達の声を実現させてほしいから。	
13	子ども、子育て世帯、若者	30~50人	体育館的な場所	ほぼ毎日		●		行けば遊べる(子どもたちだけでも)もしくは予約システムが簡単にできて誰でも(こどもいれば)利用できる	子どもたちの体を動かして遊べる場所が少ないため。 ボールやバドミントンなどができるように。 雨天時でも遊べる場所	
14	子ども(親子)	30人ほど、600㎡	子ども達が思いきり遊べるプレイルーム 体育館の床が希望	ほぼ毎日	●	●		放課後や休日の子ども達がボール遊び(ドッチボール、バレーボール、バスケットボール、サッカーなど)や鬼ごっこ、大縄など思いきり遊べるように使用する	西成区内に上記の遊びを天候や道路に面している危険などに左右されず遊べる場所が少ないから	
15	子ども、保護者、子育て家庭	20~30人	ボールなども使える屋内の広い遊び場(ミニ体育館)	週数回程度	●	●	●	ボールあそびやスポーツなど雨の日でもおもいきり体を動かして遊べる場所 バスケットゴールやバレー、バドミントンなどできるスペース	地域内のこどもの居場所は複数あるが、どれも小規模でおもいきり体を動かせるスペースは少ない。 中高生&ティーンも放課後や土日にスポーツしたい子で集まって室内で運動できる施設があると健全な交流の場になる。	夜間は、21時頃まで利用

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
16	子ども・親・親子につながる地域の人、トラウマ・障がいなど生き辛さを感じる人		緊急避難、一時宿泊、相談窓口(ワンストップ)、居場所	ほぼ毎日	●	●	●	【相談窓口】 幼～高校生(保護者・地域の人)が居場所・生活・将来(職)のことなどを相談し、対応場所へ繋ぐ。 【一時宿泊】 地域の事業所・家庭あるいは児相他対応先に動くまで寝食と安全を補償できる機能 【居場所】 相談ができる場所になる為に普段から見える・行ける場所として	・地域・行政資源に詳しく関係が取れるケースワーカーがいることにより、取り残されることなく繋がる手助けが必要 ・どこに相談したら良いか分からない人が本来受けられるサポートを受ける為	
17	小～高校生	10～30人	運動場所(屋内・屋外)	週数回程度	●	●		ボール遊びや集団あそび スケートボード、Jボードに使えるコンクリート?スペース	広さがあって周囲を気にせずボール遊びができる場所が近くにないため 同じくスケボーなどができる安全な場所がないため	
18	地域の子育て中の親子すべて	200人程度、700㎡くらい	親子での居場所、交流の場	月数回程度	●	●		定期的な親子でのワークショップやフリーマーケットなどの各種イベントを開催するために使う	今は地域の中で親子で気軽に集まったり交流できる場がどんどん減っているため。 また実際に多くの子育て中のママからそのようなイベントができる機会を作ってほしいという要望を何度も聞いているため。	
19	地域の小中高生および幼児など子どもすべて	大人数でも入れるように700㎡くらい	体育館・スポーツ広場としての機能	ほぼ毎日	●	●	●	バスケット、ドッチボール、バドミントンなど各種スポーツやその大会を思いっきりできる場所として使う。 また、地域の子ども・親子での運動会ができる場所	地域の中で子どもたちが気軽に利用できる体育館やホールが地域にないから。また、いくつかの既存の体育館やホールは、利用の予約や手続きに時間がかかったり、すでに他の団体利用ですべての曜日が埋まっていたりするからです。	
20	地域の中高生および若者	200～300人程度、700㎡くらい	居場所および自己実現の場	週数回程度		●	●	定期的に音楽クラブやダンスサークルやヨガ教室などが開催できるような場所として使用。また、それらの発表の場として、ライブやイベントなどを定期的で開催する。	夕方や夜間に中高生および若者が健康的に集えて、自身の特技や夢を活かし叶える居場所がなかなか無いため。 また中高生と元中高生が交流し、良い刺激を与えあえる場があることはすごく良いことだと考えるため。	
21	乳幼児、小学生、中学生、高校生、若者、親子		子どもの居場所。 ・体育館的な体を動かせる広場、防音設備ありの部屋 ・卓球やフットサル、バスケ、バドミントンなど、ダンスや音楽の練習ができる ・授乳できる部屋 ・絵本スペース ・飲食できる部屋 ・バリアフリーのトイレ	ほぼ毎日	●	●	●	登録制。無料もしくは低料金	家と学校以外の居場所が必要と言われているのに、児童館や青少年館がなくなっている。 いきいきは学校の空教室での実施でそれでは意味がない。 同世代だけでなく幅広い年代の子たちとすごせる場。 子育て世帯のよびこみにも、子どもがすごせるところは必要。	

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)					③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)	※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯					②-3 形態(どのように使うか)
					午前	午後	夜間			
22	親子、子ども、若者、全世代		公園・プレーパーク・農園的な緑のあるスペース	ほぼ毎日	●	●		地域に緑のあるスペースを。地産地消できるしくみ作り。そこでの世代間の交流		
23	小・中・高・若者		居場所、自己実現	ほぼ毎日	●	●	●	スケボー、バスケットゴールなど好きな時に集い、活動できる場所	自分が好きなことを行うことを通し、時には力を充電したり、新たな自分を知る機会、新たな人とつながる場になれば	
24	子育てにかかわっている全ての人(乳幼児)		・相談 ・居場所 ・あそび場(乳幼児、動きの少ない遊び)	ほぼ毎日	●	●		子育て(生活)に関する相談ができる場所 乳幼児がゆっくりとあそべる場所が隣接	・相談となるとハードルが上がるかと思うので、子どもたちがゆっくりとあそぶ姿を見守りながら、安心して話ができるように。 →相談もここである程度解決に向かえるような体制がとれれば	
25	子ども		子どもが思いっきりあそべる場所					跡地だけでは難しいと思うので、地域内の他の公園や萩小の森など、対象年齢もしくは目的に特化した空間ができれば。		
26	市内の不登校等で日中の居場所がない中高生	尼崎ユース交流センターと同規模	居場所交流	ほぼ毎日	●	●		参考：尼崎ユース交流センター	おそらく大阪市内で公設(公営、民営問わず)でそんな場所はないと思う。 (大阪市中学不登校生徒3,306人)	
27			放課後の居場所	ほぼ毎日		●	●	・コミュニケーション機能 ・塾機能		
28	こども	30~50人	保育所	ほぼ毎日	●	●	●	駅前という利便を生かして、こどもを預かってくれる(働く形態(時間)に柔軟に対応できる)旅行者などの一時保育も引き受ける。	働く時間が多様化しているので、(いくら保育所があっても周りに若い小さい子どものいる世帯が住めるハウジングがないと定着できないので合わせて検討)	
29	仕事を求めに来る人の		託児	ほぼ毎日	●	●		子供の居場所・子育て支援機能に組み込んだ形で利用のできるもの		
30	不登校の子誰でも利用したい人誰でも		したいことができる場 何もしなくてもいい場 したいことを見つけられる場 相談していける場		●	●	●		西成区に子どもを呼びよせる こどもにとって魅力ある場であれば人は来る	
31	全世代		かわいいイメージを作る							
32	子供		こどもショップ					作った作品を売る	エンパワーメント	
33	子供を預ける親		保育所として	ほぼ毎日	●	●		駅も近く仕事に行くのに送り迎えがしやすい。この地域ならではの特長を生かした保育を考える。この地域のおっちゃん達を講師として一緒に物を組み立てたり何かを作ったりするなど		

No.	①主体 (どんな人が)	②規模 (何人・何㎡くらい)	③機能(居場所・保育所など)						※備考	
			機能アイデア	②-1 利用頻度	②-2 時間帯			②-3 形態(どのように使うか)		③-4必要な根拠 (なぜ必要なのか)
					午前	午後	夜間			
34	トランスジェンダーの方 他人とお風呂に入るのが嫌な方	個室のシャワー室が 2ヶか3ヶ	コイン式の個室シャワー室	ほぼ毎日	●	●	●	シャワー室として	トランスジェンダーの方が利用できる個室シャワー室が公的にない。最近の若い方は大浴場で他人と一緒に風呂に入るのが嫌でシャワーのためにネットカフェを利用する人も多い。釜ヶ崎の中で使えるものが欲しい。	
35			地域のこと(労働者や精神がい者が多いこと)をよく知っている人が管理・運営をしないと対立・困乱のもとになることを考えてほしい。					学校や保育所に行く前に朝食を提供する。	親が用意しなくて学校にいけない子がいる。	
36	子ども(小学生以上になるかなあ)	大きくなくてもいい	相談	ほぼ毎日	●	●	●	子どもが安心して、自分の意見を言える場所(人)	子どもが安心して意見できない子どもの存在がある。守秘されながら、新たな一歩をふみだしたり、相談したりできる場があれば。	
37			屋上にスケートリンク場					庭園のまわりにコースをつくる		
38	技能講習を受けに来る人の子ども		親が技能講習を受けているときに、子どもも学ぶことができる。セットでスキルアップできる仕組み							
39			気軽に相談できる場、気軽に安心して来られる場所							
40	しんどさや問題を抱えている人		必要なところにつなぐ機能							